

平成 17 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

平成 18 年 3 月 9 日
静岡県病害虫防除所長

対象病害虫名 アワダチソウグンバイ *Corythucha marmorata* (Uhler)

対象作物 キク、カンショ、ヒマワリなど

1 発生概況

- (1) 平成 16 年に藤枝市のセイタカアワダチソウ、焼津市のヒマワリで発生がみられたとの報告があった。1)
- (2) 平成 17 年 10 月に浜松市における名古屋植物防疫所の調査により、栽培作物であるキクに寄生していたグンバイムシが、アワダチソウグンバイと確認された。また、同月、磐田市のセイタカアワダチソウで採集したグンバイムシを名古屋植物防疫所清水支所に同定依頼したところ、アワダチソウグンバイであることが確認された。
- (3) 調査した結果、県内では、県中部・西部地域の雑草や家庭菜園を中心に発生がみられた。
- (4) 本種は、北米からの侵入害虫であり、平成 12 年に兵庫県西宮市で初めて発生が確認された。平成 17 年には、大阪府、滋賀県、奈良県、三重県、京都府、徳島県、岐阜県、愛知県、香川県、岡山県、鳥取県、高知県で発生が確認されている。

2 形態および生態

(1) 形態

ア 成虫

- (ア) 体長は約 3 mm である。
- (イ) 背面に不定型な褐色の斑紋がある。
- (ウ) 体の周囲に鋭い棘が並んでいる。日本で発生しているグンバイムシには、このような棘状の突起が存在しないため、識別は容易である。

イ 幼虫

- (ア) 終齢幼虫は体長約 1.8 mm である。
- (イ) 黄褐色で、翅芽の基部や腹部の基部がやや暗色になる。

(2) 生態

- ア 成虫の発生ピークは 7 月下旬と 8 月下旬、幼虫の発生ピークは 8 月上旬と下旬である。
- イ 成虫で越冬する。

3 寄主植物

キク、セイタカアワダチソウ、ヒマワリなどのキク科植物、カンショなど

4 被害

- (1) 成・幼虫とも葉裏に寄生し、特に幼虫は集団で吸汁する。
- (2) 本虫の吸汁により、葉表に白いかすり状の脱色斑点、葉裏には黒い粘液状の排泄物が見られる。
- (3) 被害が甚だしい時は葉全体が白化し、枯死に至る場合もある。

5 防除法

- (1) 現在、本種の防除に使用できる登録農薬はない。
- (2) 他県では、栽培作物であるキクやカンショなどで被害が報告されており、ほ場周辺のセイタカアワダチソウなどのキク科雑草は発生源となるので、除草を行う。

6 引用文献

- 1) 杉山高史(2005) 駿河の昆虫 No.211:5864-5865.